

野球肘超音波検査研修会の開催報告

この度、令和元年9月29日に青森県立中央病院内研修室にて臨床検査技師の方を対象とした野球肘超音波検査研修会を開催しました。5年前より青森県スポーツドクターの会、弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座の共催で開始した青森、弘前で野球肘検診も指導者・保護者にその重要性は広まってきており、毎回多くの選手に参加してもらえるようになりました。昨年はむつ市でも野球肘検診を開始し、今後も県内の学童野球選手を対象に検診活動を継続していく予定です。しかし近年の参加選手数の増加、検診地域の拡大に伴い多くのスタッフが必要となり、その対応が急務となりました。そこで超音波検査を行うことができるスタッフを増やすことを目的に臨床検査技師を対象とした研修会を開催しました。青森県臨床検査技師会会長ならびに事務局にご協力頂いて会員に案内を行い、29名の臨床検査技師が研修会に参加しました。

研修会では青森県立中央病院整形外科の佐藤英樹先生、弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座の佐々木規博先生、私が講師となり、座学と実習を行いました。最初に私から野球肘、特に将来に影響を及ぼす可能性のある上腕骨小頭離断性骨軟骨炎(肘OCD)の早期発見と治療の重要性について、今までの県内の野球肘検診活動について講義を行いました。次に佐々木先生より肘OCDの超音波検査の方法、佐藤先生より上腕骨内側上顆障害の超音波検査方法について講義を行った後、1グループを3~4名とした8グループに分かれて実習を行いました。実習では最初に佐々木先生が超音波検査を実演しながら検査のポイント、超音波を当てるコツを丁寧に説明してくれました。参加者は検者・被験者となり実際に超音波検査を行いながら講師より細かなポイントについて説明を受けていました。殆どの参加者は運動器の超音波検査は未経験でしたが普段から診療で超音波検査をしている方も多く、スムーズに検査手技を取得できていました。

本研修会の開催の際には大学関連病院より超音波検査装置をお借りし、無事に研修会を終了することができました。関連病院の先生方のご厚意に大変感謝しております。今後の野球肘検診に参加希望の臨床検査技師も多く、整形外科医、臨床検査技師で協力して検診での超音波検査を行いたいと考えています。検診スタッフの増加、技術向上を目指して今後もこのような研修会を行いながら野球肘検診活動を継続していきたいと思っております。



佐々木先生による超音波検査の実演



グループ毎の超音波検査実習

記 青森労災病院整形外科 前田周吾